

---

# 魔法少女リリカルなのは 漆黒の抹殺者

亡靈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 漆黒の抹殺者

### 【NZコード】

N1244Z

### 【作者名】

亡靈

### 【あらすじ】

As編から、空白期 Strikersのんかで なのは、フェイト、はやて達が中学生として平穏に過ごしている時間その裏で暗躍する一人の少年の物語

## 第1章 プロローグ

はじめまして、  
亡靈です

初の一二次創作小説です

いたらない所もありますが、よろしくお願ひします  
この物語は、A S 編から空白期、Strikersに魔導師殺しを  
介入させてみた  
誤字脱字とか、文法が変  
とかあれば教えてください

### 第1章 始まりの物語

#### プロローグ

とある少年の話をしよう。  
この少年は人々の平和や幸福を願う。

そして、闇を嫌う、闇を殺すのは闇、この世界の矛盾、より多くより確実に、この世界からなげきを、減らそつと思うなら、取るべき道は、他になかった。

手段の是非を問わず、目的の是非を疑わず、ただ無謬の天秤れど少年は、ただ闇を殺す

とある管理外世界、そこの廃墟に居る一人の少年、歳は10代前半、14歳から15歳位の子供で、身長は同世代の平均より少し高いぐらいで、顔立ちは歳相応の幼い顔立ちで、目は、歳不相応で冷え切った冷たい黒い目が特徴で髪の色は黒色で短く切っている。

なぜこの場所にいるかと思うと、この辺りで、銃声がなり響いているからだ。

そして、少年がつぶやいた。

少「ノワール、セットアップ」

この少年のセットアップした。

格好はFF?のスコールのようなバリアジャケットそして、右手には、ガンブレードが握られている。

## 「FFF? のリボルバー」

ノ「OK、マスター もうと終わらへりやつせ。」

少「あああ、120秒で止を付ける」

そして少年が動いた、廃墟の地理を巧みに利用しぐちらにさずく前に銃を持っている男達を一人ずつ狩っている。ただ、音もなく地面に水が染み込んでいくよひに。

男達「！――！」少「邪魔だ。」と無感情に18人の男達を斬つていいく、その動きは、精密機械のように冷酷に狩つていつた。

そして、少年の田の前に一人の男が立っていた、名前は確かロンバステイン

このロン バステインこの男は麻薬や質量兵器の密売などをしていふると黒状を思い出すと、ロンが口をひらいた。

ロン「なんなんだよお前」と話しながら杖型のデバイスで魔弾を打つてきたが、

少年に当たる前に消滅し少年が動いた、ただ一言の言葉を発して。

少「見ればわかるだろ？ ただの管理局員だよ。」と

ガンブレード型の「バイス」とノワールでロンの右腕を切断し苦しむロンが吼えた

「な、非殺傷設定じゃないだと…お前は、管理局だろ？」

少「お前には、抹殺許可が出ている。」と無感情に告げる。

そして、少年が次の動作に入つたただ、右側から、ロンの腹部をノワールで切り裂いた。

少「任務完了」

ノ「タイム1113秒、記録更新だぜ、マスター」

少「ああそうだな、ノワール。」あらゴースト4、HQ応答せよ。

「HQ」レジスト確認した。「苦労さんゴースト4、帰還しろ、レイジ。」

レイジ「了解した、カレン隊長」

## 第1章 プロローグ（後書き）

すいません。戦闘が雑で、これが頑張っていきます。

## 第1章　?話 突然の始まり（前書き）

今回もがんばります。

## 第1章 ?話 突然の始まり

??.?S I D

### 第三世界、ヴァイゼン

今、俺が立っている場所は、とある高層ビルの15階の一室にいる。

? 「こちあら、ゴースト4、目標確認、指示を願う。」

「O」確認した、ゴースト4、速やかに任務を遂行しろ

「了解、任務を遂行する。」といって通信を切る。今、俺が持っているのは、WA2000

この銃は第97管理外世界のワルサー社の銃だ。

口径は30.8口径 重量約7Kg 全長905mm 装弾数6発  
のブルパップ方式の銃でスコープはミッドチルダ製の最新式で通常モードと魔力感知モードがある。

種別 セミオートマチック の狙击ライフルである。

そして、今、俺が居るビルから南から西北に見えるビルの一室を今、WA2000のスコープで見ている。

今回の任務は、その一室である、とあるロストロギアの取引が行われるのに伴いその取引に参加するある人物の抹殺が今回の任務である。

ある部屋

「」これが噂のロストロギアのレリックか

「はい、最近になって教会や管理局が探しているものです。」

「」のロストロギアは古代ベルカの物です。

とそのとき護衛の男が倒れた、その後に取引をしていた男も死んだ。

「目標確認狙撃開始」を合図にトリガーを弾いた。

まず最初に取引をしていた男の護衛を狙撃しセミオートで周囲に居た男達を射殺した。

「任務完了」、と無感情に

「アーラド・ゲースト4 任務終了した、これより撤退する。」

「了解した、一〇本部に顔を出せこれは、部隊長命令だ」

「了解した。」

時空管理局本局のとある部隊の一室

「ヨレイイジ」苦労さん」

「これを掛けたこの男アラド・グラッテ歳は18で魔導師ランクはAAの陸戦魔導師の男

「ええありがとうございます。隊長はどうぞこまつ」「奥の執務室に居るぞ。」

「失礼します」と言つてドアを開けると、一人の女性が書類整理をしていた。

「おかれり、任務『苦勞さんレイジ』について話してきた

「でなんですか、また任務ですか？カレン隊長殿」

カ「ええ貴方に『此名の特殊任務よ』帰つていいですか。」「ダメよ」とあしらわれる。

レ「なんで自分なのですか？」カ「情報一課からの要望よ」

レ「なんでまた情報一課からですか？」「ああ、ただ貴方を直々に指名してきたの」

レ「自分の情報は大将以上でないと閲覧できないはずですが？」

カ「ま 誰かがレイジの情報を開示したかはわからないけど、今は、貸し出しでは無く、

異動よ特戦一課からの異動よ

レ「わかりました。短い間でしたがありがとう御座いました。」「なそれだけ！」

レ「えええそれだけです。」とこつて執務室を出る「レイジをお

付けなれこ向いつけ最高評議会のお膝元よ。」

「ええ心得てありますよ、隊長」「あなた10歳年齢詐称して  
るでしょ!」

「まだ13歳ですよ。」

とこつて部隊の執務室をでた。

第1章　?話 突然の始まり（後書き）

スイマセン遅くなりましたフ

## 第1章 ?話 情報一課

管理局本局

情報一課SICO

時空管理局本局 情報一課そこは、管理局の諜報活動の支援や身内を監視しての防諜活動

ある時は、スペイ活動や犯罪組織えの潜入捜査あとテロリスト狩りがあり災厄暗殺任務を請け負つ

ことがある。いわば情報一課は、管理局の汚れ仕事を担当し管理局の裏仕事に関わっている。

とそのコトを思いだいながら、指定された部屋に入った。

そこはただ広い部屋だった。

「…………」だが後ろから、気配を察しどうに右へ飛んだ。

「いい判断だ、だが甘い」と声がした。若い男だったその直後、男がナイフを抜いた

そして小さな動作でこちらに接近しナイフで切りかかつてきた。

「ひよこまか逃げるな」といつて、手首からもう一振りのナイフ

を足りだした。

「Jの男ナイフ戦はかなりできるな。

と思つたそのとき、「いい加減に死にやがれ！ガキ」と蹴りを放つてきた。

その蹴りを左手で弾き行動にでた。

「手加減するので、くれぐれも死なないでください。」と冷淡に言葉を発した。

男S I D

最初は旦那に頼まれた、任務だった

「今日うちの部隊に新人が来るから、試してやれ」と言われたと面倒と思つたが、このガキは面白い。

感もいいし、反射速度もいいしかもだが彼が驚いたのは、この少年が10歳そJの子供と分けが違

「Jのガキは、一言でいいゆうと、異常だった、恐怖さえ感じた。

そして田の前の少年が言葉を発した「手加減するので、くれぐれも死ないでください。」

といつてきた。

## レイジSID

戦略予測、この男は、ナイフ戦を好んでいる。

魔法面で、デバイスを使う気配はない。

なら答えは簡単だ、すばやく、男の左足に向けて蹴りを放つ「ち  
っ・・・・」そしてバランス崩した

次の瞬間、レイジはその後、男の右手をつかみ、肩の間接を外し、  
ナイフを奪い、男に奪ったナイフを突きつけた。

男「やるな、ガキ。」といつてきた。

だが少年がナイフを捨てて、言葉を発した。

レ「壁の向こうで高みの見物をしているのだらうへ、わざわざ出て来い。」

????SID

そこには数人局員がいた。

「何できずかれた。」と一人の男性局員がいった。

「ありえないでしょでたらめよ」と少しヒステリック気味の女性局員が言葉を発した。

「Jの防壁は特別製で見えないはずだった。

レイジSOLID

「ナイフを貸し手ください」と男に向かっていった。

「あ・あ・いいぞ」といつて軽く投げてきた。  
良い子は真似してはいけません。>

とナイフを借り手、そのナイフを壁に向かって投げつけた。

レ「Jんにちは」

といつて爽やかに壁を蹴り破った先に居たのは、身長は2メートルを超す大男だった。

「失礼と思わんのかね?」と大男が言つてきた。

「いきなり、ナイフを持って襲ってくる部隊は初めてですよ」

「いきなりの歓迎に感動したかね？」 レ「いえ、そんなことはあつませんよ」

「と血口紹介が私は、情報一課課長、バ「バクスター・モーガン」等陸佐殿」私を知っているのか。」

「ええ自分の行く部隊のことを少し調べましたよ」とたん単に話す少年。

レ「では」「ちりも血口」「その必要はないよ、クジョウ レイジー等空尉いや、魔導師殺しのクジョウ君」自己紹介はいらないですね。

「

バ「よろしく、クジョウ」「尉」「じゅうじやモーガン」等陸佐殿



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1244z/>

---

魔法少女リリカルなのは 漆黒の抹殺者

2011年12月21日15時48分発行